

2024年7月8日

至誠会より、皆様へ

(会長 齋藤麗子)

皆さま、こんにちは。一般社団法人至誠会、会長の齋藤麗子です。この度は、東京女子医科大学及び当法人が、皆さまには大変なご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございません。

今日は、東京女子医大及び当法人で何が起きているのか、また当法人は今後どうしようとしているのか、皆さまにご説明させて頂ければと考えております。

まず当法人、一般社団法人至誠会は、東京女子医科大学医学部の卒業生を会員とした同窓会組織として、今から98年前の1926年に設立されました。現在の会員数は約4,600名です。会員は東京女子医大卒業後、引き続き同学で勤務している者もおりますし、また全国各地で様々な活躍をしている者もおります。会員に共通していることは、皆母校のことを愛しており、母校の発展を願っているということです。またこの正会員に加えて、現役学生600名が準会員として所属しております。これまで東京女子医大と当法人とは、切っても切れない密接な関係であり、二人三脚で両法人は発展を遂げてまいりました。しかしながら、この後説明する理由により、昨年4月の臨時社員総会での岩本絹子・前会長の解任、6月の社員総会での新理事会発足と、激動の時期を迎えております。私たちは、この一年間様々な困難のなかで、至誠会を運営しリードしてまいりました。

さてここからは、当法人業務執行理事の山田多佳子よりご説明させて頂きます。山田は、今回の一連の変化のきっかけを作った「東京女子医大を復活させるOGの会」から活動を続けております。このOGの会についてもご説明致します。

(業務執行理事 山田多佳子)

皆さま、こんにちは。一般社団法人至誠会、業務執行理事の山田多佳子です。この度は私どもが大変お騒がせをし、ご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。

私からは、私たちが東京女子医大についてどのような危機感を持ち、それを受けてどのように行動し、現在どのような状況にあるのか、についてご説明させて頂きます。

2年前、私は母校である東京女子医大が危機にあるとの報に触れました。それは、優秀な人材が相次いで退職しているというものでした。これまで東京女子医大は、我が国が誇る高度な技術や能力、ノウハウを持つ人材を抱えていることが自慢でしたが、そういった人材が流出しているということでした。これは何か重大なことが起きているのかもしれない。私は大学卒業後しばらく学内で勤務した後、30年以上の時間を学外で過ごしてきましたが、母校の危機を聞いて黙って見過ごすことは出来ませんでした。

東京女子医大では、これまでも重大な医療事故が発生し、特定機能病院の認定を取り消さ

れるなど問題を抱えておりました。そういった重大な問題を改善し大学改革をけん引すべく、2019年に理事長に就任したのが岩本絹子氏でした。

しかしながら、岩本氏が理事長に就任して、事態は更に悪化したと言わざるを得ません。

岩本氏率いる経営陣は、コストカットのため、ヒトを大事にしない経営を行いました。そういった経営の結果、職員の離職が相次ぎました。ICU、小児 ICU といった専門性の高い医師、内科医、麻酔科医、看護師、技師、事務職など、多くの優秀な人材が大学を去っていきました。この結果、高度医療の安全性の確保に大きな懸念が生じています。東京女子医大が運営する本院、足立医療センター、八千代医療センターとも、病床利用率、患者数が激減しています。大学入学志願者も減少しており、また卒業生の進路として東京女子医大を選ぶ人数も激減していました。

そのような中、危機感を強めた女子医大卒業生有志が、東京女子医大の経営陣刷新と共に、東京女子医大の再生を実現すべく立ち上がりました。その有志一同は「女子医大を復活させるOGの会」と名乗り、2023年1月ごろより活動を開始しました。私もこの会に参加致しました。

ところで東京女子医大では、他大学と同様、理事会が中心となって経営されています。理事会の構成員である理事たちは、理事同士で相互牽制を効かせつつ、意見をぶつけ合いながら、東京女子医大を良い方向にリードしなければなりません。またこの理事会を監視監督する機関として評議員会がありますが、評議員会は理事会が正常に機能していることをしっかりモニタリングしなければなりません。

東京女子医大の問題は、理事会・評議員会ともに岩本理事長を支持する人物で固められており、岩本理事長に対する反対意見が通らないことです。一部の問題意識を持った理事、評議員が意見しても、その意見は通ることはなく黙殺されます。

更に、東京女子医大の経営に関し、協力関係でありながらも経営の緊張感を与える機関として至誠会がありますが、当時、至誠会の会長は岩本氏が兼務しており、至誠会の経営陣も岩本氏の支持者で固められていたため、至誠会がその本来の役目を果たせる状態ではありませんでした。東京女子医大はガバナンス不全に陥っていました。

このような状況下において、OGの会はずは至誠会の体制転換を図るべく行動を開始しました。至誠会では、4,600名の全会員の中から、選挙によって全国から90名程度の社員が選ばれ、その社員が、経営を執行する15名程度の理事を選任する仕組みをとっています。OGの会は、至誠会員4,600名に対し母校の危機を伝えると共に、至誠会の体制刷新の必要性を強く訴えました。この結果、2023年4月の臨時社員総会において、岩本氏は至誠会会長を解任され、同年6月の定時社員総会においては社員が刷新され、岩本氏の影響が及ばない、新生至誠会が誕生しました。

この新生至誠会の会長が、冒頭でご挨拶致しました齋藤麗子であり、私もこの体制刷新を経て業務執行理事に選任されました。新生至誠会は従来の至誠会とは異なります。東京女子医大卒業生の強い危機感と民意を得て誕生した、新しい同窓会なのです。

ここからは、新生至誠会の監事であり、2024年3月まで東京女子医大監事でもあった小野由子よりご説明致します。

(監事 小野由子)

皆さま、こんにちは。一般社団法人至誠会、監事の小野由子でございます。この度は、関係各位に大変なご心配をお掛けしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

監事は理事の職務執行と組織の運営を監査する立場です。私は大学監事の立場で、大学の運営が適切でないと気付きながら問題は正できなかったことを大変遺憾に思っております。大学では、問題を指摘した私の意見は取り上げられず、理事会で強く非難されたこともあります。私立学校法では、監事の権限が限定的でもあります。同時に前体制の至誠会の中で、前会長と特定の職員に対する不正な給与などの支払いや、推薦入試や至誠会員の大学での昇格に対しての寄附の要求などに気づけなかったことに、大変責任を感じており、心からお詫び致します。なお、このような問題は、現在の新体制では解消しております。

法人の責任者は、その社会的使命を果たすために、大学と教職員に奉仕する立場であるべきと考えております。残念ながら、大学運営はそれとは方向が違ってしまい、問題があれば特定の誰かのせいとされ、反対意見を言えば役員でも職員で非難され、排除される状況が続いております。そして大学の岩本理事長が至誠会会長であったことが、結果的に都合よく両法人を利用でき、様々な問題に繋がったと考えております。

今回、至誠会の体制が一新され、卒業生たちの危機感が形になりました。また学内においては、岩本理事長の退任を要求する署名活動が展開され、大学による署名禁止令にも関わらず、実に2000人以上の教職員・関係者の署名が集まりました。大学の有志の医師たちは、この署名を理事会へ提出し、理事長の退任を求めましたが、理事会より拒否されました。この有志の医師たちこそ、覚悟を持って大学と患者さんのために強い意志を表明し、これからの大学・病院を中心となって支えていく人たちです。私たちもこの医師たちの考え、行動に心から賛同致します。

東京女子医大の全ての理事及び評議員の皆さま方にお伝え致します。東京女子医大が将来の我が国の医療現場を支える人材育成の機関であり、国民の健康を守る高度医療機関としての使命を負っていることを今一度振り返って頂き、責任ある行動をとって頂きたいと切に希望致します。そのために役員全員の退任と新しい体制での女子医大再生を求めます。

また社会の皆さま方におかれましては、東京女子医大全役員の退任の必要性をご理解頂き、私たちの行動をご支援頂けますと幸いです。

創立者吉岡彌生先生の意志を絶やさず、東京女子医大を正常化させ、教職員を守るために私たちは全力を尽くします。何卒ご支援ご指導下さいますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(会長 齋藤麗子)

私ども新生至誠会は、本来の役割を担うため生まれ変わります。情報公開、清潔な運営。そして東京女子医大とは、協力関係を築きながら、相互牽制の機能を担い、東京女子医大が社会の皆さまのお役に立てる組織として復活するため、私たち至誠会は全力を挙げてまいります。皆さま方におかれましては、大変ご心配をお掛けし心苦しく思っているところではございますが、何卒ご理解下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

最後に、東京女子医大に通う学生の皆さんにお伝えします。皆さんには大変不安な思いをさせてしまっていることを申し訳なく思っています。ごめんなさい。私たちは先輩として、必ずこの危機的な状況を打破し、私たちが学生だった時のように皆さんが安心して学生生活をおくれる環境を取り戻すことをお約束します。

皆さんは引き続き、良い友人たちと濃厚な時間を過ごしてください。クラブ活動を通して様々な経験を積んでください。知識を習得できる環境にあることを親御さんに感謝し、まずは医師国家試験、看護師国家試験を突破できるよう力を尽くしてください。そして医療者として、社会のお役に立てる人材となるよう努めてください。

皆さま、私たちは全力で取り組みます。どうぞ宜しくお願い致します。

以上